

— 長期研修を終えて —

小学校低学年における 表現活動の指導法



岩槻区 徳力小学校 教諭 田 矢 真 理

1 はじめに

私は、平成17年度、東京藝術大学にて学ばせていただき、たくさんのご縁を得ることができた。私は、「小学校低学年における表現活動の指導法」という研究主題のもと、特に、9年間の学びの中で「音楽的な表現力」をはぐくむためには、低学年でどんな指導をすべきかに視点をあて、研修を進めた。

2 研究主題設定の理由 及び研究の仮説

低学年での表現活動は、9年間の学びの中で音楽的な表現力をはぐくむ基盤となるであろうとの考えから、以下のような仮説を立て、研究を進めた。

音楽的な表現力をはぐくむ基盤は、音楽的な感受を活性化することであり、低学年においてとりわけ豊かにはぐくまれるであろう。

3 研究の成果

歌を歌ったり楽器を演奏したりする際、イメージをもっているかいないかでその表現に大きな差が生まれる。自分の心の中になんらかのイメージをもちながら、そのイメージを音や音楽として表現するにはどんな方法がよいか工夫する中で、音楽的な表現力をはぐくまれる。歌を歌ったり、楽器を演奏したり、つくって表現したりする表現活動は、音楽的な感受が活性化され、より豊かなものとなる。

低学年の子どもによる音楽的な表現力は、興味のある音楽活動に夢中になって取り組むという傾向や、なにかになりきって歌うという特性を生かした楽しい授業を展開する中で、豊かにはぐくまれていくことが明らかとなった。

感性を働かせて、曲想や美しさなどイメージをもって感じ取る音楽的な感受の育成は、積み重ねが大事であり、低学年からの継続した指導が望まれる。

4 今後の課題について

低学年で学習した音楽的な表現力を、いかに中学年・高学年そして中学生の表現活動の中で、深めていくことができるかにある。音楽的な表現力を9年間の学びを通していかにはぐくんでいくかについては、何かを心に抱いて表現することを多く経験させ、それを表現するための技能を自然な形で導いていくことが大切である。やっていたか、やっていなかったかでは、その表現力に大きな差が生まれる。表現は心の世界の広がりとも関係があり、感性の育成とも大きくつながるものである。

5 おわりに

研究を進める過程においては、様々なご指導をいただき、テーマに関わることはもちろんのこと、いろいろな観点から物事を捉え、視野を大きく広げることの大切さを学ぶことができた。長期研修教員として学んだことは、私の教員生活の中で、大きな財産となると思う。心よりお礼申し上げます。

(たや まり)